東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008年1月25日

相談することとその重要性

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンでは、信者の主な特質について言及されています。その特性の一つが、問題があった時に互いに相談しあって解決することです。ここでは相談すること、誰かの意見を聞くこと、という意味になります。イスラームの徳によると、信者はどんなことについても互いに、親しく、誠実な形で知識のやりとりを行なうべきです。そして相談しあって物事を決めていくことが基本なのです。崇高なる書であるクルアーンは、「そして諸事にわたり、かれらと相談しなさい。いったん決ったならば、アッラーを信頼しなさい。本当にアッラーは信頼する者を愛でられる。」（イムラーン家章第１５９節）と命じています。また別の章句では「互いに事を相談し合って行う者」（相談章第３８節）として、信者から求められる振る舞いを示しているのです。

親愛なるムスリムの皆様。相談することの最もよい例を預言者ムハンマドは示しておられます。その生涯を詳しく見ていけば、周囲にいた友たちに重きをおかれ、彼らと意見のやりとりをされていたことを読み取ることができます。宗教に関する問題については啓示を待たれ、アッラーのご命令に従って行動されておられましたが、戦争、調和といった集団全体に関わり、見方や判断によって解決される問題に関しては、教友たちに相談され、彼らの意見を尋ねておられたのです。預言者ムハンマドが亡くなった後も、教友たちは同じように行動しました。イスラーム史において重要な試金石となったバドゥル・ウフド・ハンダクの戦いについて彼らと相談しました。例えば、ウフドの戦いにおいて預言者ムハンマドの意見は、マディーナに残って防衛戦を行なうことでした。しかしバドゥルの戦いに参加できなかった若い教友たちの一部は、広いところで偶像崇拝者たちの軍と正面から戦うことを望んだのです。預言者ムハンマドは多数派の意見を承認され、戦いはマディーナの外、ウフド山のふもとで行なわれたのです。まだ１０歳の時にその母によって預言者ムハンマドの従者とされたアナス・ビン・マーリクはそのお方について、「友と相談することにおいて、預言者ムハンマドほど優れておられた人を誰もしらない。」と語っています。

クルアーンの章句も預言者ムハンマドの実践も、人はあらゆる仕事において他者と知識や経験のやりとりを行い、益を得ることができるということを示しています。これはアッラーの命令であり、同時に預言者ムハンマドのスンナであり、そして信者の益になることでもあるのです。このことを理解していた、非ムスリムの集団ですら、コンサルティング会社を設立しているのです。今日このコンサルティング会社は、商売、軍事、政治の場面でその影響力を強め続けています。

親愛なるムスリムの皆様。相談を行う時に気にかけているべき最も重要なポイントは、誰に相談するか、ということです。この点は、その仕事においていい結果を出す上で重要な影響を及ぼします。だから、相談する相手が利口であり、経験を持っており、信心深く徳のある人、誠実で健全な考えを持っている人、はっきりした意見を持ち、人の心理を正しく判断し、信頼できる人であるよう、注意を払うべきです。知性を伴わない、徳を持たない、傲慢なだけの人に相談することは、人に何の益ももたらさないことは明らかなのです。

今日のフトバをユースフ章の第７６節で締めくくりたいと思います。「全ての知者の上に全知なる御方はいる。